



〈研究〉産業革命以前ニ於ケル英國産業ノ一班(2)

石澤, 久五郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 31(5):771-785

(Issue Date)

1921-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053372>



産業革命以前ニ於ケル英國産業一班 (其二)

ドクトル・ガブ・
フィロソフイ 石澤久五郎

三

農業時代 更ニ進ンテ農業時代トナルヤ天然ヲ利用スルノ力カ大ニ増加シ、土地ヲ耕作スルニモ單ニ器具ノ外ニ動物ヲ使用スルヤウニナリ其結果ハ財富ノ生産ヲ増シ從ツテ人口ヲ増加スルヤウニナツタ。原始的ナ生産方法ノ下ニ少數ノ種族ヲ漸ク維持スルニ過キナカツタコロノ土地モ耕作ノ發達ト共ニ一社會ヲ維持シ得ルヤウニナツタ。カクテ人民ハ一定所ニ住スルコトトナリ從ツテ家族家庭ヲ持ツ而シテ更ニ隸屬スルノ國家ヲ有スルコトトナツタ。於是、各個人間ニ於ケル社會關係ハ更ニ密接ナルモノトナリ、新ラシキ義務、新ラシキ技藝、又新ラシキ可能性ヲ生スルニ至ツタ。又土地ニ關シテ私有制度ハコノ時代ニ入リテ發達シ、同時ニ奴隸ハ農耕ニ使用セラル、ヤウニナツタ、勿論奴隸使用ハ早クカラ行ハレタガ、ソノ一制度トシテ經濟的發達ニ貢獻シタハコノ農業時代ニ入ツテカラノコトデアル。更ニ農業時代ニ入ツテ注意スヘキ事柄ハ人民ノ一定所ニ居住スルヤウニナツタ當然ノ結果トシテ村落ノ發生シタコトデアル。而シテ彼等ノ經濟生活ハ自己所用ノモノハ自ラ生産シテ使用シタ自給自足ノ經濟狀態デアツタカラ、他ニ賣却スルノ剩餘モナク、又交換ノ

媒介トナル貨幣ノ必要モナク、從ツテ商業取引ハ此ノ時代ニアリテ極メテ稀デ商業的都市ノ成立ヲ見ルカ如キコトハナカツタ。

羅馬占領時代ノ後期、即チ五世紀及六世紀ニカケテ日耳曼ノ北西部ヨリ浪來タシ「チュートン」種族ノ小天國カ多數ニ興起シタノデ、從ツテ羅馬ノ勢力ハ全ク消失スルヤウニナツタ、而シテ此等ノ小天國ヲ分領スルトコロノ「アングロ」及ビ「サクソン」諸王ハ、六世紀ヨリ七世紀ニ亘リテ混血種族ノ英國人ヲ支配シタ。七世紀八世紀ニカケ此等諸王間ニ鬭爭ノ絶ユルコトガナカツタ。サテコノ「アングロ」、「サクソン」時代ニ於ケル人民ノ唯一ノ生業ハ農業テアツタ。即チ英國人ノ經濟生活ハ已ニ牧畜時代ヨリ農業時代ニ進シタ。商業ハ「タウン」ニ於テ始マルコトトナツタ。コノ「サクソン」時代ニ於テ都市ハ防禦ノタメニ建設シタ城下ヲ除イテハナカツタ、各地方ノ生産物ハ自給自足ノ生産デアツテ從ツテ内地ノ商業ハ極メテ微少テアツタ。工生産ハ勿論發達スルニ至ラス、タ、織物、農具及ヒ武器ノ製作、船ノ建造、及ヒ金屬ノ使用ヲ羅馬占領時代カラ繼承セラレテ存續シタ。人口ノ最大多數ハ以前ト同様ニ農作地、森林及ヒ荒地等ニ取圍マル、村落ニ居住シテ農業的ノ經濟生活ヲ享樂シテ居ッタ。

八世紀末ヨリ「デーン」人カ英國ニ移住シテ一大勢力トナリ、遂ニ一世紀半ニ亘リ英國ヲ支配シタ。之ニ反抗シテ南部地方ニ於ケル「サクソン」人ハ、「デーン」人ノ羈絆カラ脫スルノミナラズ更ニ彼等ヲ驅逐シヤウトシテ鬭爭シタノハ勿論ノコトテアル。而シテ八世紀ヨリ十一世紀ニ至ルマデテ後「サクソン」時代ト稱シテ居ル、サテ「デーン」人ハ元來商業方面ニ發達シタ人種デアツタ、ソレ故ニ英國ニ侵

入シタ「デーン」人モ同様ニ新ニ移住セル英國ヲ商業的方面ニ引キ入レヤウトシタ。カク「デーン」人カ商業的氣質ヲ具備シテ居ルトコロカラ英國人ヨリモ「タウン」生活ヲ好ンタ、其結果ハ便宜ノ地ニ立テラレタ村落ニ商業町ノ發達スルノ機會ヲ與ヘタ。又以上ノヤウナ經濟干涉カラ手工業ノ發達トナリ從ツテ後「サクソン」時代ノ人民ハ前「サクソン」時代ニアツタヤウニ徹頭徹尾農耕ヲ專業トスルヲナク種々ノ手工業ヲモ兼ヌルマデニ進ンタ、シカシナカラソレハ一部分ヲ尙人民ノ多數ハ農業生活デアツタ。

其後十一世紀ノ後半期ニナツテ、ノルマンデー公ノウキリヤムハ王位繼承問題カラ英國ニ侵入シハロルト王ヲ破リ進ンテ倫敦ニ入り自ラ英王ノ位ニ即キ英蘭ヲ支配シタ。歷史上ニレヲノルマン征服ト稱シテ居ル、而シテ爾來ウキリヤム王ノ子孫ハ永ク英國ニ君臨スルコトトナツタ、即チノルマン王家其後チュードル王朝トナリ、スチユアード王朝トナリ、又ハノヴァー王朝トナツタケレトモノルマン王家ノ血脈ハ今日ニ至ルモ傳承セラレテ居ル、ソノ變化ハチュードル家、スチユアード家又ハハノヴァー家ノ血液カ加ハツタトイフマデノコトデアル。サテ英國ガノルマン王家ニ征服セラレタ結果トシテ政治上、社會上著シキ影響ハアツタカ、經濟上ニアツテハ「ノルマン」ノ商人カ移民トシテ「ノルマン」諸都市ヨリ倫敦及其他ノ都市ニ來住シ、又織匠ハ其處此處ノ町ヤ村落ニ來住スルコトトナツタ、而シテコレラハ更ニ一段ト英國ノ商業ト手工業トヲ發達セシムルノ誘因トナツタ。又カウシタ事情カラ町、殊ニ海岸ニ沿フテアル町ハ「サクソン」時代ニ於ケルヨリモ更ニ重要ナ地位ヲ占ムルヤウニナツタ。尙一般人民ノ生活上ノ經濟狀態ハノルマン征服後三世紀ニ亘ツテ「サクソン」

時代ト同シク農業時代ニ屬スルモノデ彼等ノ大多數ハ村落 Villages 又ハ莊園 manors ニ居住シツ
、アツタ。

莊園制度ハ農業時代ニアツテ尤モ興味アル一研究項目テアル、而シテ英國ニ於ケル莊園ハ「サクソ
ン」時代ニ已ニ存立シテアツタモノトシテ認メラレテ居ル、シカシナカラ、莊園制度ノ充分ナル發達
ハノルマン王朝ニナツテカラ、封建制度ト因縁シテ成就セラル、コトトナツタ、即チ莊園ハ封建的
義務及ヒ勤勞ヲ盡スタメノ、政治的並ニ社會單位トナツタノデ莊園地頭(莊司)ハ更ニ封建的領
主トシテ立ツヤウニナツタ。其處テコノ莊園制度ニツキテ少シク説明ヲ試ミヤウ、勿論詳シキコト
ハ特殊ノ研究ニ待タネバナラヌ。サテ今日ノ意味カラ言ヘバ地主カラ土地ヲ借リテ耕作スルモノハ
借地人^{テナツ}デ、地主ハ其等土地ノ絕對所有者デアル、乍併莊園ノ地頭ハ土地ノ所有者デナク、ソノ預リ人^{プレシツ}
デアツタ。總ベテ土地ハ王ノ所有ニ屬スルモノデ貴族ハ莊園ノ地頭トシテ何レモ數箇處ノ莊園ヲ預
ツタ、シカシテ年預リノ莊園ハ同一所ニ連接シテアルヨリハ處々ニ隔離セラレテアツタ、而シテコ
レカノルマン王朝ノトツタ地頭ニ對スルノ政策デアツタ。王家モ巨數ノ莊園ヲ私有シ代官^{Barons}
ヲ置イテ此等ノ耕作事務ニ從ハシメタ。又モクノ莊園ヲ預ツテ居ルトコロノ地頭ハ必要上カラ代官
ノ處理ニノミマカセズ、借地人ニ又貸シテ耕作ニ從ハシメタ。カクテ王ヨリ直接ニ莊園ヲ預カル
トコロノ貴族ハ Tenant-in-Chief ト呼バレ、又貴族カラ間接ニ土地ヲ借リルトコロノモノハ Tenants
-in-meane ト呼バレタ、而シテ實際ニ於テコノ中間借地人モ莊園ノ地主デアツタ。此他僧侶及ビ寺
院モ亦多數ノ莊園ヲ所有シテ居ツタ。カ、ル事情ノ下ニ土地ガ如何ナル割合ニ於テ彼等ノ間ニ分配

セラレタカトイフニ、王ハ直接ニ全國土地ノ十分ノ二ヲ私領トシテ所有シ、僧侶及ビ寺院ハ其十分ノ三ヲ領有シ、貴族即チ莊園地頭ハソノ殘リノ十分ノ五ヲ領有シテ居ツタ。而シテ莊園所有者ハ王又ハ地頭ニ對シテ當然封建的義務ト特別ノ機會ニ獻金貢納ノ義務トヲ負フコト、ナツタ。

以上アゲタ土地ノ領有者又ハ莊園ノ所有者ノ下ニ實際上耕作ニ從事スルトコロノ農民ガアツタ、而シテ此等ノ農民ハ自由小作人 *Free tenants* ト無自由農民 *unfree tenants* ニ區別セラレ、更ニ後者ハ農僕 *villains* 小屋住農夫 *Cottars* 及ビ奴隸ノ三階級ノ農民ヲ包括シテ居ツタ。コノ内奴隸ハノルマン征服後マモナク其跡ヲ絶ツヤウニナツタ。サテ無自由農民ハ全ク經濟上ノ自由ナク土地ニ附屬シ及ビ主人ニ服從シ主トシテ勤勞ノ提供ヲ強要セラレタ、週仕事 *Week works* 及ビ物日仕事 *Boon works* ガソレデアル、而シテ此等勞働ノ外ニ彼等ハ貨幣又ハ貨物ニテ借地料ヲモ仕拂ツタ。自由小作人ハ土地ニ縛ラル、ノ拘束カラ自由デアツタ、從ツテ土地ヲ自由ニ處理スルコトカ出來タ、借地料ハ貨幣、貨物、又ハ勞力ヲ以テ仕拂ハレタ、而シテ彼等ハ召集セラル、場合ニ軍事的勤勞ニモ服シタ、ソレハ封建時代ニ於ケル自由農民ノ誇リデ、無自由農民ハ軍事的勤勞ニ就クヲ許サレナカツタ。

終リニ莊園ノ模様ニツキテ一言ヲ試ミヤウ。莊園ノ中心ハイフマデモナク、莊家 *Manor-House* デ、ソレハ地頭ノ住居デアル、而シテ地頭ガ其處ニ居住セヌ場合ニハ、代官ガ其處ニ居住スルノガ常例デアル。又コノ莊家ハ裁判所トシテモ使用セラレタ。更ニコノ莊家ニ近ク、又ハ遠カラヌ處ニ寺院ガ一般ニ建テラレ、ソノ本堂内ガ集會所トシテ又ハ市場トシテ使用セラレタ。次ギニ重要ナ建物ハ「ミル」(水車) デ水力ヲ利用スルタメニ流レノホトリニ建ラレタ。小作農民ハ村落ノ通路ニ沿フ

テ居住シタ、而シテ十一世紀頃ニ於ケル一村落ノ平均人口ハ約百五十人位デアツタ。ソレガ土地ノ割當ヲミルト第一ガ莊家ヲ周圍スルトコロノ地頭ノ土地デアルコレヲ領地 *Demesne land* ト稱スルコレハ地頭又ハ代官ニヨツテ直接ニ耕作セラル、モノデアル。次ギハソノ村落ノ可耕地デ、共同農園 *Common fields* トシテ小作人^{テナツツ}ニヨツテ耕作セラル、而シテ農園ハ通例長キ線條ニ區劃セラレ、又循環農作法ヲ行フタメニ三個ノ農園アルヲ必要ナルモノトシタ。第三ハ家畜ヲ飼養スルニ必要ナル共同牧場デアル。第四ハ森林デ、ソレハ地頭ノ領有デアル、乍併可範圍ニ於テ森林ヲ利用シ得ルノ權利ガ農民ニマデ許サレテアツタ。第五ハ荒地又ハ未耕地デアル、而シテソレハ牧草地トシテ使用シ得ベク、又農民ハ薪材及ビ飼料ノタメニ芝草ヤ羊齒^{シヅ}ヲ取入ル、ノ權利ヲ享有シテ居ツタ。第六トシテ牧草地ガ數ヘラル、而シテソレハ一般ニ地頭ノ領有デ、冬期牧草ヲ供給スルコトカラコレヲ借入ル、ニハ格外ノ借地料ヲ仕拂ハネバナラナカツタ。最後ニ個々ニ圍ヒ込ミタル「クロース、ラント」ガアツタ、ソレハ更ニ多ク。家畜ヲ飼養シ、又ハ更ニ多クノ土地ヲ耕作シヤウト願フトコロノ農民ガ借地スルトコロノモノデソノ借地料ハ共同農園ノヨリモ高カツタ而シテ地頭ハンノ領地ニ附着シテ「クロース・ラント」ヲ所有シテ居ツタ。

以上ハ莊園ニ於ケル土地割當ノ種類ヲアゲタマデバ、何レノ莊園モ其等ノ種類ヲ凡ベテ包容シテ居ルモノダト斷ズルモノデハナイ、乍併何レノ莊園モ可耕地、牧場、牧草地及ビ森林等ガアツテ、莊家ガンノ中心トナリ、村落ニ便宜ノ處ニ成立シタモノデアル、而シテ莊園ノ人口ガ平均百五十人トイツタヤウニ、村落ハ大ナルモノデハナカツタ。即チソノ小ナルモノハ十軒、十二三軒ノ農家カ

動力機械工業ノ前驅ヲナシタモノデ、直接ニ消費者ノ必要ニ應ジ又ハ生産物ヲ直接ニ顧客ニ販賣スルノ目的ヲ以テ小數ノ家族及ビ徒弟等ト共ニ小規模ニ加工業ヲナストコロノ經濟行爲デアル。

サテ歷史上ノ變遷ハ一時期ニヨツテ截然ト區劃セラル、モノデハナイ、故ニ一度存在シタ事實ハ經濟生活ノ必要ナルカギリ、新ニ發達シタ事實ト共ニ永ク共存シテ繼續スルモノデアル。從ツテ一度ビ經驗シタリシ狩獵時代ノ生産方法即チ狩獵ハ農業時代ニ進ンダ後ニモ共存シテ繼續シタ。同時ニ農業時代ニアツテモ農業ニヨル生産方法ノミニテハ満足ナル經濟生活ヲ享樂シ能ハザル事實カラ必然ニ工業發達ノ萌芽ヲ生スルヤウニナツタ。即チ農業時代ノ尙ホ繼續セラレツ、アル間ニモ或程度ノ商業ハ行ハレ、都市モ起リ從ツテ手工業モ行ハル、ヤウニナツタ。英國ニ於ケル農業時代ハ十四世紀ノ頃マデ續イタ、而シテ手工業時代ハ十三世紀頃ヨリ十八世紀ニ及ンデ居ル。

都市經濟ガ村落經濟、即チ農業經濟ト同ジカラザル相違點ハ商業ノ發達シタルコト、及ビ手工業ノ行ハル、ヤウニナツタコトトデアル。即チ十四世紀中葉ノ英國ニ於テ村落生活カラ區別シ得ル政治ト生業トヲ有スル略二百ノ「タウン」ガアツタ。ソノ當時倫敦ノ人口ハ二萬五千人、ヨーク及ビプリストルノ人口ハ略一萬人デアツタ、而シテ他ノ「タウン」ノ人口ハ千人カラ六千人ノ間デアツタカラ、千五百人乃至四十人ノ「タウン」ガ尤モ多カツタ。此等ノ「タウン」ハ王ヨリ特許ヲ得テ自治權ヲ享有シ、又十三世紀ノ終頃カラ議會ニ代表者ヲ送ルヤウニナツタ。既ニ都市ノ發達ニナツタ、而シテ都市生活ハ生業ニヨツテ村落生活カラ區別セラル、ヤウニナツタ、即チ都市ニ於ケル生業ノマツ第一ハ商業デアル、第二ハ手工業デアル、而シテコレガ農業時代ニ發達シタ事情

カラ「タウン」ノ人民ハ町ノ劃外ニ幾千カノ土地ヲ所有シテ、作物ヲ作り、家畜ヲ飼ツテ居ツタ、乍併彼等ノ本業ハ商賣デアツタ、即チ多少ナガラ輸入セラレタ外國商品、農村ニ生ジタ生産剩餘ノ品物、國內ニ於ケル一地方ノ特種產物等ヲ處理分配スルコトデアツタ。ソレカラ商業ヲ保護シ且ツ取締ルコトノ必要カラ「タウン」「タウン」ニ一ノ經濟組織ガ自然ニ發達スルコトトナツタ、コレガ商人「ギルト」デアル。「タウン」ノ人民ハ大體ニ於テ「ギルト」ノ組合員デアツタ、而シテ「ギルト」ハソノ「タウン」ノ商業ヲ取締リ、且ツソノ「タウン」ノ商業ヲ獨占シテ組合商人ノ利益ヲ保護シタ、從ツテ組合ノ利益ハ「タウン」ノ利害關係ト事實上一致シタノテ組合ハソノ「タウン」ノ司法、行政及ビ財政ノ範圍内ニマデソノ勢力ヲ伸張スルコト、ナツタ、シカシ十四世紀ヲ有力ナル峙トシテ漸クソノ勢力ヲ失フヤウニナツタ。コレハ人口ノ増加ト共ニ手工業ノ都市ニ發達スルヤウニナツタ結果トシテ「クラフト・ギルト」トイヘル組合ガ更ニ重要ナル事トナツタメデアル。

職人「ギルト」ハノルマン征服以前、即チ「サキソン」時代ニ既ニ存在シテ居ツタ、シカシマダ重要ナルモノデハナカツタ而シテソレガ重要ナルモノトシテ公然承認セラレタノハ十四世紀ニナツテカラデ更ニ十五世紀ニナルト何レノ「タウン」デモ二十人以上ノ同業者ヲ持ツコロノ職業ニハ必ズ職人「ギルト」ガアルヤウニ一般のモノトナツタ。職人「ギルト」ハ同ジ町ノ商人「ギルト」ト同様ニ共在スルコトハ稀デ、始ニ商人「ギルト」ガ組織セラレ、ソレニ勢力ヲ失フヤウニナツタトキニ職人「ギルト」ガ起ツテ來ルトイフヤウナ順序デアツタ。而シテ職人「ギルト」ノ根本原則ハソノ組合員ノ私的利益ノミヲ計ルバカリデナク、ソノ職業ニ對シヨキ評判ヲ維持スルタメニ優良ナル品

物ヲ製作スルトイフコトデアツタ、コノ故ニ劣惡不良ノ品物ヲ作ツタモノハ組合ニヨツテ所罰セラレタ、夜業ハ劣惡ノ製作ニ導クモノトシテ禁ゼラレタ。コノ目的ノタメニ組合ハ「タウン」ニ於テソノ職業ヲ取締リ又ソノ獨占ヲ維持スルノ必要カラ作業ノ方法、組合加入ノ條件、及ビ職業見習等ニ關シテ一定ノ規則ヲ設クルコトトナツタ、從ツテ何人モ組合ニ入ルコトナシニハ何ノ職業ニモ從事スルコトガ出來ナカツタ。又以上ノヤウナ事情カラ職業見習ノタメ徒弟ノ年期奉公ガ該組合制度ノ下ニ發達スルヤウニナツタ。サテ職人ニ三階級ガアツタ、第一ハ親方 Master デ組合員トナルノ資格ガアル、第二ハ旅職人 Journeyman デ年期奉公ヲ了ヘテ職業上ノ自由ヲ有シ將來親方トナルノ機會アルモノ、第三ハ現ニ奉公中ノ年期約束ノ徒弟デ、マダ獨リ立チトナラヌモノデアアル。此等三者間ハ至ツテ親密ナモノデ、ソノ地位ニモ大ナル差違ハナカツタ、而シテ今日ノヤウニ特設ノ工場ハナク親方ノ住家ヲ仕事場トシテ一所ニ働イタモノデアアル。

サテ以上ノヤウニ「ギルド」制度ガ商業及ビ手工業ノ根據地デアアル「タウン」ニ發達シツ、アツタ時ニ村落ニ於ケル莊園制度漸ク崩解スルノ運命ニアツタ。而シテ該莊園制度ヲ崩解セシムルニ至ツタ原因ヲタヅヌルニ、第一ハ農僕ノ勞力仕拂ガ貨幣仕拂トナツタコトノ變化ソノモノデアツタ、コレハ都市ニ於ケル商業及手工業ノ發達カラ富ヲ蓄積シタノデ、ソノ結果流通貨幣ノ増加トナリ、コレガ剩餘農産物ノ賣却ニヨツテ農僕ノ手ニ這入ツタコト、雇傭ニ應ジ得ヘキ自由勞働者ノ數ヲ増加シタコト、ニヨルモノデアアル。千三百四十八—九年ノ黒死病ハ英國人口ノ二分ノ一ヲ斃シタノデ一人當リノ貨幣流通高ハ倍加スルヤウニナツタノデ賃銀ハ昂騰シタ、地頭地主等ハ王ニマデ請願シテ從

前ノヤウナ勞力經濟ニ強制的ニ引戻サウト努メタ、ソノ結果ハ千三百八十一年ニ於ケル百姓ノ大暴動トシテ爆裂シタ、コノ一揆ハ寧ろ失敗ニ畢ツタノデ突然ノ變化ヲ起コサナンド、乍併十五世紀ノ前半期ニ亘ツテ勤勞提供ノ變換ハ急速ニ行ハレテ借地料ハ勞力ニヨルコトナシニ全ク貨幣ニテ仕拂ハル、コト、ナツタ。サテ莊園ニ從屬シテ居ル農僕ノソノ地頭地主ニ對スル勤勞ハ極メテ不安定ノモノデ、地主ノタメニハ如何ナル勤勞ニモ服サナケレバナラス、而シテソノ勤勞ハ莊園ノ慣習ニヨツテ取締マラレテ居ツタ、乍併彼等ノ勤勞ガ貨幣ニテ仕拂ハル、ヤウニナツタトキニ不安定ハ取除カレテ彼等ノ地位ハ法律上猶農僕デハアルガ實際上彼等ノ仕拂フ貨幣地代ハ自由農民ノ仕拂フ貨幣地代ト異ルコトガナカツタ。故ニコノ事實ハ實際ニ農僕ノ地位ヲ高メタモノデアツタ。第二ノ原因ハ地頭又ハ代官ノ管理ノ下ニ耕作シテアツタ領地 *demesnes* ヲ貨幣地代ニテ貸出スヤウニナツタコト、及び牧羊業ヲ盛ニ行ハル、ヤウニナツタノデ爾來ノ耕地ヲ牧場ニ變ジテ圍込農園トスルヤウニナツタコト、デアアル。第三ノ原因ハ從來地方的デアツタコロノ産業取締ガ國家的ニ取締ラル、ヤウニナツタコトデアアル。即チ莊園ノ地方的個人的關係ガ國家的政治、國家的經濟ノ更ニ一般的關係ニ轉進スルヤウニナツタコトデアツタ。サテ以上ノ諸原因ノ相互ニ抱合シテ土地ニ附隨シテ居ツタトコロノ農僕ノ解放ガ絶エズ行ハレタ。而シテ十五世紀ノ中頃ニハ英國ノ村落ニ全ク農僕ヲ見ザルコト、ナツタ。ヤガテ莊園制度ハ崩壞スルノ運命ニ陥ツタ。

家内手工業 人文ハ絶エズ發達進歩スルコノ發達進歩ニ伴ツテ生産品ニ對スル需要ハ次第ニ増加スル、同時ニ其市場モ同ジ割合ニ擴張スル、コノ増加シタ需要、擴張シタ市場ニ向ツテ充分ナル供給

ヲナスニハ從來ノヤウナ組合手工業ノ組織ニヨツタ生産デハ最早間ニ合ハヌヤウニナツタ。ソコデコノ生産不足ヲ補フノミナラズ充分ノ供給ヲナスタメニ自然ノ必要カラ家内工業ニ發達スルヤウニナツタ即チ家内工業ハ工場工業ニ到達スル過渡ノ時代ニ起ルトコロノ工業制度デ、其作業ハ依然トシテ手工ニ依リ小規模ニ行ハル、モノデハアルケレドモ、ソノ組合手工業ト相違スルハ商業機關ニヨツテ統一セラル、ノ點ニアル。即チ後者ニアリテハ親方ガソノ製造シタトコロノモノヲ直接ニ需要者ニ販賣セシヤウニ單純デアツタガ、前者ニアツテハ販賣ノ一ハ商人ニ任カセテ手工業者自身ハ専ラ生産ニ從事シタコトデアル。而シテコノ商業機關ハ漸次ニ重要ナルモノトナツテ、遂ニハ家内工業制度ト離ルトコロノ出來スモノトナツタ、即チ中間ニ立ツトコロノ商人（問屋）ハ小規模經營ノ手工業者ノ多數カラソノ生産ヲ買入、又ハ賃仕事等ノ方法ニテ引取り、コレヲ遠距離ノ市場ニマデモ販賣ノ出來ル經濟機關トナツタ、コノ故ニ家内工業ハ問屋制度又ハ仲繼制度ノ工業トモイヒ得ル。カクシテ家内工業ハ組合手工業ニ代ツテ發達シタ、單純ナ手工業カラ一足飛ニ近代ノ複雑ナ工場制工業ニ進ムニハ技術ニ於テモ幼稚ニ、資本ニ於テモ豊富ナラズ、又市場モアマリ廣クナカツタ等ノ事情カラ過渡時代ノ産業制度トシテ家内工業ノ發達スルノハ自然デアル。

サテ英國ニアツテ家内工業ノ行ハレタノハ十五世紀ノ中葉カラ十八世紀ノ中葉マデ、アル。云フマデモナク、英國ニ於テ尤モ重要ナ、而シテ鐵工業及ビ木綿工業ニ先立チテ早くモ發達シタトコロノ産業ハ羊毛工業デアツタ。コレハ毛織物ガ英國民ノ常服ニナツタカラデアル。ソコデ毛織物業ニ從事シテ居ツタ職人等ハ何レノ職工ヨリモ早くモ職人「ギルド」ヲ組織シテ斯業ノ發達ヲ圖ツタ、乍

併毛織物職工ハ何レノ職人ニモ先立チテ職人「ギルド」ヲ破壊スルニ努メタ、而シテ創設又破壊何レモソノ理由ハ毛織物ニ對スル需要ノ擴張シタトイフコトデアツタ。即チ國內ニ於テ賣却スル許デナク、又外國ニモ輸出スルタメニ織物ヲ集メルニアタリ生産者ト消費者トノ間ノ距離ノアマリニ遠イノデ商業的仲間者ノ必要ヲ感スルヤウニナツタ、而シテコレガ十五世紀ノ後半期ニ入ツテカラ殊ニ必要トナツタ。從來ノ職人「ギルド」ハコノ必要ニ應ジ得ルヤウニ組織セラレタモノデハナカツタ、該制度ノ職分ハ過去ノモノトナツタ、而シテ漸次ニソノ影ヲ薄クスルコト、ナツタ、同時ニ中間商人（問屋）ナル階級ガ發達スルヤウニナツタ。毛織物業ニ於テソレガ織物商（*clothiers*）ト呼バレタ、而シテ彼等ハ原料トシテ羊毛ヲ買入レ、コレヲ紡績スルタメニ夫々ノ職工ニ送り、出來上ツタ毛絲ハ更ニ織屋ニ送ルト云フヤウニ種々手數ヲカケ織リ上ツタ毛織物ハ之ヲ取集メテ國內市場ニ又ハ海外市場ニ向ケ賣捌クトイフヤウナ組織デ仕事ハ云フマデモナク、紡績工ヤ、織屋ノ住居ニ於テ二三人ノ職人ヤ徒弟ヲ相手トシテ爲サレタモノデアル。

サテ簡様ナ順序デ家内工業組織ニヨリ作業サル、ヤウニナツタモノハマヅ第一ニ毛織物業デアツタ、其後漸次ニ他ノ産業ニモ行ハル、ヤウニナツタ。而シテ製造工業ノ多クハ、地方ノ村落ニ、又ハ大キナ町ノ附近ニ於テ營マレルヤウニナツタ。コレハ職人「ギルド」制度ノ下ニ手工業ガ主トシテ「タウン」ニ行ハレタト相違シテ居ル重要ナ点デアツテカク工業地ノ變化シタノハ當時ノ家内工業者ガ經濟生活上土地ノ耕作ヲモ兼ねテ居ツタカラデアル。

終リニ家内手工業時代ニ發達シタ英國産業ノ重要ナルモノヲアグレバ前ニモ述ベタヤウニ第一ガ

羊毛工業デアリ フランダー ガ歐洲大陸ニ於ケル毛織物工業地デアツタ時ニ英國ハ羊毛ノ供給者デアツタ、乍併十六世紀末ニ フランダー ハ西班牙ノ迫害ト侵略トニヨツテ殆ンド回復ノ出來ヌ大打撃ヲ受ケタ、而シテ英國毛織物業ノ發達ハ英國ニ避難シタ數百ノ フランダー 人ニヨツテ成就セラレタルモノデアアル。カクテ斯業獎勵ノタメニ羊毛ノ輸出ハ禁ゼラレ⁽¹⁾ 十七世紀末ニハ毛織物ノ輸出ガ全輸出ノ三分ノ二ヲ占ムルヤウニナツタ。三十年戦争ノ結果トシテ獨逸ハ實際ニ衰頹シタ、獨逸人モフランダー人モ英國ノ競争者デナクナツタ。佛王ルイ十四世ハ「ナンキ」ノ勅令ヲ以テ迫害ヲ新教徒ノ上ニ加ヘタノデ「ヒゲノー」ノ英國ヘノ脱走トナツタ、彼等ハ熟練セル工人デアツタノデ英國ノ利益ハ非常ナモノデアツタ、即チ其等ノ移住者ハ五萬人デ略三百萬磅ノ資本ヲモ携ヘ來ツタト言ハレテ居ル、而シテコレニヨツテ絹織物業、硝子業、製紙業ノ何レモガ大ニ發達スルコト、ナツタ。石炭ハ早クカラ探掘セラレタガ十四五世紀ニナツテカラ一般ニ探掘セラル、ヤウニナリ、改府收入ノ財源トモナツタ、殊ニ十七世紀ニ入ツテカラ王室ノ收入ヲ増加スルタメニ、ニユーカッスル石炭ノ獨占權ガ一私人ニ特許セラレタコトモアツタ。乍併石炭業ノ眞ノ發達ハ産業革命以前ニハ見ラレナカツタ。鐵ニツキテモソレハ中世紀ニ探掘セラレタガ極メテ少許デ、ソノ製鐵方法ニ於テモ、薪材ヲ用キテ甚ダ粗雜ナルモノデアツタ、而シテ薪材ノ使用ハ遂ニ森林ヲ伐リ盡クスニ至ランコトヲ恐レテ燃料トシテ石炭ヲ使用スルニ至ルマデハ鐵鑛業ノ發達ヲ抑制シタ、十七世紀ニ入ツテ一部ニ石炭ヲ使用スルモノヲ生ジタガ大部分ハ依然トシテ薪材ヲ使用シタ、從ツテ斯業ノ顯著ナル發達ハ産業革命以後ニ見ルコト、ナツタ。綿絲綿布工業ノ歴史ハ寧ロ新シキモノデ十七世紀ノ始頃

マデハ存立シテ居ナカツタ、タダ其以後ニ起ツタトコロノ家内工業デサマデノ進歩モナク來ルベキ産業革命ノ曉鐘ヲ第一ニ聞クコト、ナツタ。

- (1) 十七世紀ノ終リニ於テ羊千二百萬頭カラ剪取ラレタ羊毛ノ價值ハ二百萬磅デ、其等羊毛ヲ使用シテノ毛織物ノ價值ハ八百萬磅デアツタ。同世紀ノ中頃(一七四一)ニ羊ノ數ハ千七百萬頭ニ羊毛ノ價值ハ三百萬磅ニ増加シタルニ拘ラズ、其等羊毛ヲ使用シテ製造セル毛織物ノ價值ハ増減ナク八百萬磅デアツタ、コレハ織物ノ數量ハ増加シタガ發明ニヨツテ製織上ノ價值ヲ増サナカツタノデアアル。更ニ千七百七十四年ニハ毛織物ノ價值ハ千三百萬磅ニ、羊毛ノ價值ハ四百五十萬磅ニ増加シタ。而シテコノトキハ産業革命ノ曉鐘ヲ聞イタトキデアアル(Giffins' Industry in England, p. 309)

- (2) 十七世紀ノ終ニ於テ英國ノ年々採掘シタ鐵產出高ハ十八萬磅デアツタガ千七百十九年ニハ英國產業ノ第三位ニ進ンダ。乍併薪材ノミヲ使用スルノデ森林濫伐荒廢ガ恐レラレテ、鐵工業ハ立法ニヨツテ寧ロ抑制セラル、ヤウニナツタ、コレガタメニ千七百四十年頃ニハ年々ノ鐵產出高ガ一萬七千三百五十噸ニマデ減少シタ。Giffins, Industry in England p. 313

【附記】

コノ一小文ハ産業史研究ニ入ルノ準備ニシテ、産業革命以前ニ於ケル英國產業ノ發達ナ經濟發達ノ各階級ニ配列シテ鳥瞰的ニ叙述シタモノデアアル。ヨシンレガ鳥瞰圖的叙述トシテモ、尙充分ノモノデハナイ、從ツテ更ニ之ノ研究ヲ進メテ足ラサルヲ補フル必要アルハ云フマデモナイ。(大正一〇・六・二〇)(完)